

FUKU-FUKU



まんが・漫画・マンガ展! 2024

高知漫画集団・高知漫画グループくじらの会合同作品展

【自由作品】



「ちっちゃなロボット」シリーズ
P一助 (高知漫画集団)



【テーマ…ふしぎな植物】

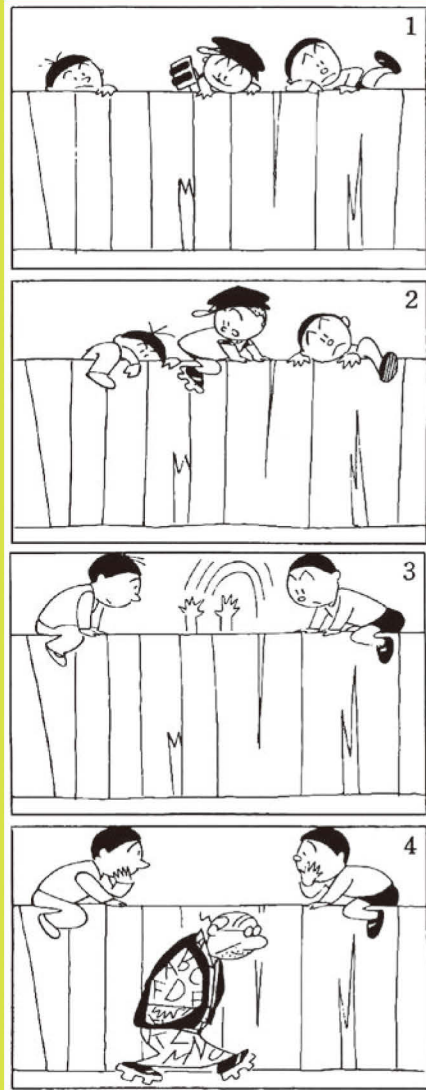
「動物が咲く花」
橋村政海 (高知漫画グループくじらの会)

「動物が咲く花」
橋村政海 (高知漫画グループくじらの会)

「動物が咲く花」
橋村政海 (高知漫画グループくじらの会)

「動物が咲く花」
橋村政海 (高知漫画グループくじらの会)

フクちゃん 横山隆一 (1956年)



関連イベント

「似顔絵コーナー」
あなたの似顔絵をお描きします!
開催日●会期中の土、日、祝日の7日間(予定)
3月16日(土)・17日(日)・20日(水・祝)・23日(土)・24日(日)、30日(土)、31日(日)
時間●11:00~17:00 (途中休憩あり)
場所●企画展示室入口
参加費●色紙代100円 +チャリティー
※募金は、「NPO法人高知こどもの図書館」への寄付を予定しています。

「こどもまんが教室」
まんがの描き方入門
日時●3月20日(水・祝) 10:30~12:00 / 13:30~15:00
場所●まんがライブラリー2
講師●岩神よしひろ (高知漫画グループくじらの会)
対象●小学生
参加費●200円
定員●各回20名
申込方法●事前にお電話でお申し込みください

「まんが体験イベント」
ぱっくんアニマルをつくろう!
日時●3月24日(日) 10:30~12:00 / 13:30~15:00
場所●まんがライブラリー2
講師●おかもとあつし (高知漫画集団)
対象●小学生
参加費●200円
定員●各回20名
申込方法●事前にお電話でお申し込みください

期間●2024年 3月16日(土)~ 3月31日(日)
場所●横山隆一記念まんが館 企画展示室
時間●9:00~18:00
休館日●月曜日
観覧料●無料
主催●高知市、横山隆一記念まんが館
共催●高知漫画集団、高知漫画グループくじらの会

第19回
まんがの日
記念

4コマまんが大賞作品展
の報告と次回募集開始について

期間 ● 2023年12月16日(土) ~
2024年1月21日(日)
場所 ● 横山隆一記念まんが館 企画展示室

「第19回4コマまんが大賞」に応募いただいた作品のうち、入賞作品を含む一次通過作品と前回の入賞作品・ギャラリー賞を加えて、計145点を展示しました。

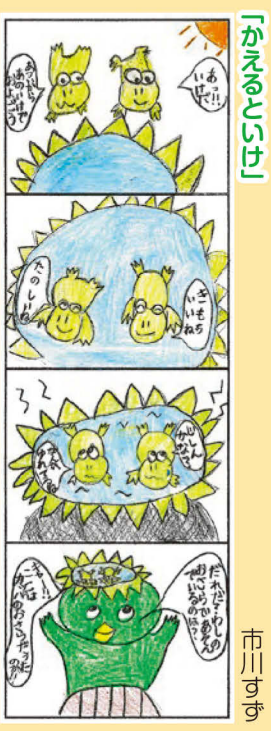
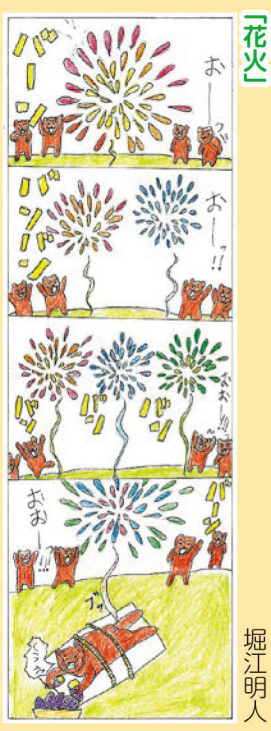
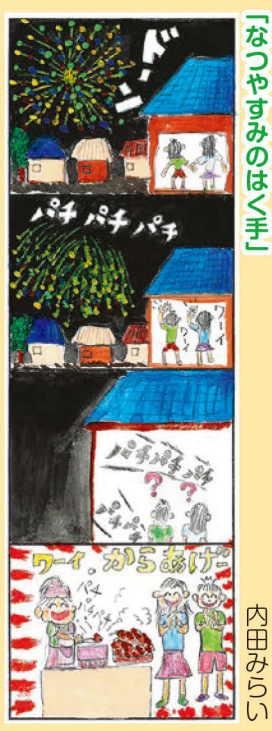
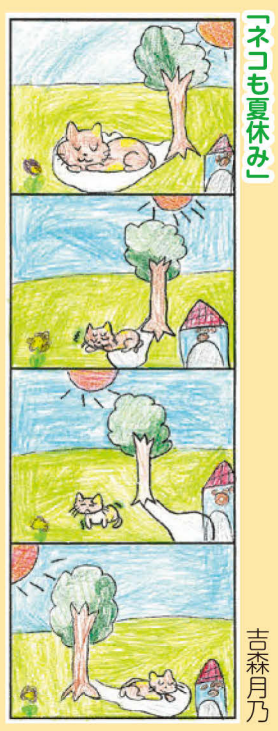
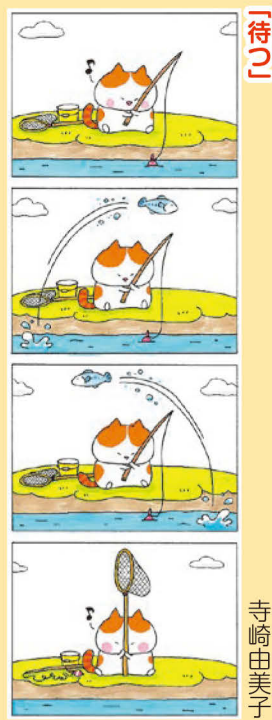
会期初日には、審査員の矢野徳さん、くさか里樹さんにお越しいただき、表彰式を行いました。

来場者の皆様にお気に入りの作品を選んで投票してもらい、得票数が多かった作品に贈られる「ギャラリー賞」を今年も実施し、100人を超える方からの投票で、一般・シニア部門合わせて9作品が選ばれました。横山隆一記念まんが館のホームページでは、作品の画像とともに投票の理由(抜粋)も公開しています。

また、20回目の「4コマまんが大賞」の作品募集が、4月から始まります。詳しい応募要項等は3月下旬ごろから公開の予定です。あなたの作品を楽しみにしています。奮って応募ください。



ギャラリー賞 一般部門



第7回お城下文化の日 に参加しました

高知市中心部の文化施設が連携・協力し活動する団体「お城下ネット」は、毎年11月に「お城下文化の日」という「文化」をキーワードとしたイベントを開催しています。2023年11月19日(日)には、第7回お城下文化の日が開催され、まんが館もブース出展や特別展示などを行いました。

まんが館会場では、来館者への限定プレゼントを配布したほか、特別展示「小我楽多展 MINGI GARAKUTA-EXHIBITION」を開催しました。企画展「超我楽多展」に関連した展示を行い、展示物にタイトルをつけてあそぶ参加企画も実施しました。

合同ワークショップ会場の帯屋町商店街では、高知漫画集団の山北三砂子先生と種田英幸先生による似顔絵コーナーと、紙風船に絵を描いたり紙を貼ったりして作品をつくる体験イベント「紙風船であそぼう」を実施し、まんが館会場とともにたくさんのご参加をいただきました。

そのほか、お城下ネットの参加館がリレー形式で帯屋町周辺を紹介する「お城下まちあるき」では、中央公園とはりまや橋のエリアを担当し、中央公園では隆一の生家があった場所や当時の様子を、はりまや橋では隆一がデザインした「純信お馬像」を解説しました。

展示や体験講座、フィールドワークなど、様々な方法で「まんが」や「文化」を多くの方々と共にできたいと思います。また次回もお楽しみに。



似顔絵コーナーは大盛況！客足が途切れることはありませんでした(先生方ありがとうございました！)

「まんがで遊ぼう！プレクリスマス」にたくさんの子 どもたちが来てくれました

冬のまんが体験イベント「まんがで遊ぼう！プレクリスマス」は、4コマまんが大賞作品展のギャラリ賞に投票すれば、クリスマスにちなんだ工作を楽しめるという恒例のイベントです。いくつもの工作に挑戦できることが目玉のひとつですが、コロナ禍においては一人ひとりの滞在時間が長くなることが感染リスクを高めるといった判断から、工作の数を減らして実施してきました。

2023年12月23日(土)に実施したプレクリスマスでは、4年ぶりにコロナ禍以前の規模で開催することができ、参加してくれた子どもたちは「まんがカレンダー」「まんが缶バッジ」「まんがクリスマスカード」「まんがクリスマスツリー」の中から、好きなものを合計4つまで作りました。

午前中こそ参加者数は少なかったものの、午後は満席の状態が続き、多くの子どもたちに工作に挑戦してもらったことができました。工作を4つまで作ることができるので、缶バッジをもうひとつもっと上手に作ってみようとか、最後のひとつはきょうだいに持って帰るクリスマスカードにしようとか、真剣に考えて選び、工作に向かう姿が強く印象に残っています。

4年間のブランクで初参加の子どもたちばかりになったようですが、今後も多くの子どもたちに体験イベントを楽しんでもらえるように呼びかけていきたいと思います。



家族と、きょうだいと、友達と、工作に挑戦しました

まんがと私

里見デザイン室代表

元高知県立牧野植物園教育普及課長

里見 和彦



「青春の予行演習」

高2のとき(1973年)「少年マガジン」に連載していた松本零士の「男おいどん」に夢中になった。東京の木造ボロ下宿に住む地方出身の浪人生が主人公。何をやっても失敗するが、なぜかこの下宿には謎めいた美女が現れては去っていく。キノコが生える汚い四畳半、面倒見の良い大家のおばさん、主食はラーメンライス、そして失恋。一つひとつのアイテムが一人暮らしへのあこがれをかきたてた。美大受験を目指していた僕は、上京後に展開される(かもしれない)青春ドラマを勝手に脳内でシミュレーションした。松本零士は連載終了後、本作の日常性とはかけはなれた異次元のSF大作家となった。でも彼の中ではもともと人情あふれる四畳半と、無限の宇宙とが無理なくつながっていたのだらう。

僕はというと30代後半から植物学者牧野富太郎に夢中になり、Uターンして彼の名を広めようとしてきた。松本零士は福岡で活動していた若い頃から、植物を描くために「牧野日本植物図鑑」を愛読し、牧野博士にあこがれを持っていたそうだ。一昨年(2022年)から、僕と妻はその博士が住んだ東大泉に遺された勉強部屋を70年前の姿に再現する仕事に勤しんだ。それが完成に近づいた昨年の2月13日、博士の家のほど近くに住んでいた松本零士は亡くなられ、ついに宇宙の星になった。

今年、東京での暮らしと帰郷後の時間とが同じ長さになった。なんだか「男おいどん」で演習を繰り返した青春ドラマの本番がフィナーレを迎え、そろそろ壮年ドラマが始まるうとしていいるような気分のごころです。

高知の
まんが家
だより

「定年のデザイン展」開催

高知市出身で展示デザイナーの里見和彦さんの個展「定年のデザイン展」が、高知市越前町の喫茶・本ギャラリー十月で開かれました。この展覧会は、高知新聞に掲載していたエッセー「定年のデザイン」70篇に、追加で30篇を加えた書籍を発売したことを記念したものです。

里見さんには、前作「雑草のサバイバル大作戦 ドクターマキノの植物たんけん」を出版したときに、原画や展示デザイナーの仕事について、まんが館で展示をしていただいたことがありました。

今回の展示は、エッセーに添えられたイラストの原画や登場するモノを中心に、展示デザイナーとして関わった仕事内容の紹介等見どころ満載でした。1月21日に開催されたトークイベントでは、エッセー執筆のきっかけや裏話、書籍にするときのこだわりが語られ、参加者とのやり取りから、さらに話が広がっていく楽しいひとときでした。



トピックス
TOPICS

「竜」と共同巡回展について

収藏品テーマ展示について

まんが館の4階常設展示室に、令和5年度から三テーマ展示コーナーを設け、3ヶ月に1回程度で展示替えをしています。令和5年12月から令和6年2月にかけては、新年の干支にちなみ、隆一の描いた「龍・竜」の絵を特集展示しています。挿絵から油彩タブロー画まで様々な竜の絵がありますが、数枚のイラストの竜は胸が短いせいか、ワニに見えるよね」とスタッフで話していたところ、年始のNHKの番組で、中国の伝説の動物として登場した竜は何がモデルか？ということが語られていて、竜のモデルは50万年前から有史時代まで中国に生息していた巨大ワニ「マチカネワニ」だという説が紹介されているのを見ました。隆一の画家の目はすごい！学会に発表される何十年前前に、既に「竜はワニの変形」と見破っていたとは…と感動しました。



『横山隆一・竜』

トピックス
TOPICS

寄付をいただきました

まんが館には、隆一のことや収藏品のことについて、様々な問い合わせをいただきます。この数年、なぜか外国の方からの問い合わせが相次ぎました。本年は一つの資料について偶然にも2件、アメリカの方から問い合わせがありました。それは1946年、終戦間もなく英語で出版された『FUKU-CHAN』についてです。そのうちの一方は、日本のまんがのファンだというAndres deLunaさんという方で、偶然この本を入手されたとのこと。『FUKU-CHAN』はあの澁澤栄一の親族の澁澤多歌子を中心になって、華族の若い婦人たちが作った慈善団体「タカラクラブ」が、戦争孤児たちを支援するために出版したものです。

まんが研究を専門にしている方ではないようですが、簡単な質問から、数回やり取りを重ねるうちに詳細な情報にまで質問が及んでいきました。拙いネット翻訳での返信を繰り返しましたが、大変感謝していただいて、館の仕事の為に、寄付のお申し出をいただきました。さすが寄付文化の根付いたアメリカの方ですが、思いがけないことで、恐縮しました。が、ありがたく受け取らせていただきました。ありがとうございました。



『FUKU-CHAN』

さて、3月以降のテーマ展示の予定を紹介いたします。(変更になる場合もあります)

会期	展示テーマ	備考
R6 3月～5月	新漫画派集団時代	R5年度の共同巡回展準備事業の報告展示 デビュー間もない頃の隆一について紹介する
R6 6月～9月	遊びとおもちゃと子どもの心	隆一が集めたおもちゃコレクションや、キャラクターグッズ、手掛けた子ども向けグッズなどを紹介する
R6 10月～12月	高知のまんが家	寄贈等で受け入れた、隆一以外の高知出身まんが家の作品等を展示
R7 1月～3月	やなせたかしと横山隆一	NHK連続ドラマ「あんばん」に寄せて

3月から予定している「新漫画派集団時代」は、令和7年度の実施に向けて、熊本県の湯前まんが美術館（那須良輔記念館）とさいたま市立漫画会館（北沢楽天の記念館）と共催準備を進めている展覧会のプレ展示です。当館に収蔵されている様々な資料を、ぜひご覧ください。

館のご案内

開館時間 9:00～18:00
休館日 毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は開館) 年末年始(12月28日～1月4日)
常設展示観覧料 一般410円
団体(20名以上)320円・65歳以上200円・高校生以下無料
身体障害者手帳(1、2級)、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその介護者(1名)は200円
お問い合わせ先 〒781-9529 高知市九反田2-1 高知市文化プラザかるぼーと内 横山隆一記念まんが館
TEL:088-883-5029
FAX:088-883-5049
URL:https://www.kfca.jp/mangan/ E-mail:mangan@kfca.jp



横山隆一記念まんが館へは、高知市文化プラザかるぼーと3階の入口よりご入場ください。

新着図書(2023年11月～2024年1月)

- 高知出身まんが家
『くだぐだするき!』1巻 大崎ペコ丸
『DYS CASCADE』5巻 中川海二
オススメピックアップ!
『夜廻り猫』10巻 深谷かほる
『ダブル』5巻 野田彩子
『ひとりでしにたい』7巻 カレー沢薫
『ブルーペリオド』15巻 山口つばさ
その他、続々入荷中!



春になるとなぜかいつも「何か」を始めたくなる。通信教育、スポーツ、楽器etc. どれも続かず、家には初心者向けの講習や教室に参加するために購入した用具が、さまざま無用の長物と化している。そんな私に、従姉が「結局、何をするかじゃなくて誰とやるか、ながよ。」と。「仲間の存在は大事よ。」自身の経験からもそう思うのだそうだ。確かに思い起せば、お稽古に行けば仲間に見える、という気持ちを持ってたものは、頑張れたような。昨年参加した市民ミュージカルもそうだった。この春は、誰と何を始めようか。(花)